

北の森林 も 林 国有林



北海道森林管理局



北海道森林管理局がコンサートホールに
(関連記事2面)



国民の森林・国有林

地球を守る木 みんなの財産国有林

8月4日（月）、北海道森林管理局ウッディーホールにて北海道札幌西高等学校管弦楽団との共催で「サマー・コンサート in Woody Hall」を開催しました。

これは、同楽団の札幌コンサートホールKitaraでの定期演奏会を前に地域住民のみなさんを招いてのコンサートを行ったもので、80名以上の部員が奏でる、ブラームスの交響曲第2番ニ長調など、おなじみのクラシック音楽が木々の香り漂うウッディーホールいっぱいに響き渡る大迫力の演奏会となりました。

夏休み中でもあり、コンサートに来た小中学生は、お姉さんお兄さんの演奏にすっかり魅了されていました。



サマー・コンサート in Woody Hall

札幌西高管弦楽団

木々の香り漂う庁舎から
緑の風を発信中

指導普及課だより



名調子に引き込まれる鈴木さんの講談

一般市民のみなさんを対象とした「心と体に効く、森林の不思議体験！」をテーマに6回開催する森林公開講座を8月20日（水）に開講し、第1回目「北海道の森林と暮らしの歴史（講談）」を北海道森林管理局において行いました。

明治後半から昭和20年代後半にかけての森林と人々の暮らしがわかる貴重な写真を、講談師の鈴木仁さんが滑舌良く説明、続いて北海道林業技士会の西川滯二さんによる実体験を交えたそれぞれの写真の詳しい解説が続きました。

セピア色の写真は、講談でイメージが広がり、さらに解説が付き色々なエピソードが登場し、参加者のみなさんも大変興味深く聞き入っていました。

また、ウッディーホールでは「北海道の森林と暮らしの歴史写真展」も同時開催し、多くの方々に写真を見ていただくことができました。

セピア色の写真を 講談にのせて

公開講座
「北海道の森林と暮らしの歴史」



昔の伐採風景や森林鉄道などの珍しい写真を多数展示しました。



実体験を交えて、いろいろなエピソードを紹介する林業技士会の西川さん。



アオダモの木がバットを作る大きくなるまでは長い年月がかかるんだよ。だからみんなが森林を育てているんだよ。



年輪を数えたらこの木が何歳か分かるんだ。この木が生まれたのはお待さんが刀を振り回していた時代だよ。



ポコポコしておもしろい。見て、触ってみて、自然の芸術を体験！



みなさん注目！このオニグルミのコブは、なんと四五〇歳なんですよ！



たくさんの？を抱えて元気に来局

山の手南小4年生

8月28日（木）、札幌市立山の手南小学校4年生86名が、北海道森林管理局を訪れました。

同4年生は総合学習「山の手ウォーカー HOT COM.」という活動で、地域の特色を調べ、良さを実感し伝えていくという学習を進めています。

今回は、その一環として同校の近くにある「森林管理局」の仕事を知り、それをきっかけに木や森林の役割、環境保全について学ぶことが目的です。

子どもたちは、ウッドイーホールに展示されているエゾマツの年輪板、アオダモのバット、樹齢450年のオニグルミのコブ材の説明を聞き、元気いっぱい質問し、熱心にメモを取っていました。

また、大会議室ではプロジェクターを使って、北海道森林管理局の仕事や森林の大切さについての説明も行い、森林や地球環境についてさらに理解を深めてもらいました。

森林のこともっと知りたい！

札幌市立三角山小

8月4日（月）、札幌市立三角山小学校の6年生2名が自分の夢の職業に携わっている人々について調べ、自分の将来と向き合うことを目的にした総合学習「12歳のハローワーク」の取材に来てくれました。私たちの仕事を将来の職業の選択肢に加えてもらえたらうれしいですね。



ウッドイーホールから、北海道森林管理局の仕事を取材しました。

台風倒木被害と復旧を取材

北海道札幌清田高校 理科部

8月28日（木）、北海道札幌清田高等学校の理科部10名が「平成16年の台風による支笏湖周辺風倒木被害と復興」の取材に訪れました。すでに色々なことを調べているとのこと、質問もさすがに高度。担当者の説明も真剣でした。



今後の支笏湖周辺の復旧の方策などについて、専門的かつ詳細な質問が出ていました。



←この旗印の下に、みんな集まれ！



←ちよつと怖いけど、とっても楽しい空中散歩



→ヤチダモの苗木を百本植え付けました。

八月二日（土）、「子どもたちによる森づくりと森での活動の集い」を札幌市の簾舞国有林で行いました。

みぞ まい
簾舞国有林で森林づくりと探検

森林の中って楽しいいっぱい!

北の森21運動の会

この後、一行は「森のたんけん」に出発。クマガラの食痕木、森の泉、倒木更新などの森の不思議を発見するたびに、子どもたちは目を輝かせていました。

午後からは、お楽しみメニュー、木と木の間に張ったワイヤーをわたる空中散歩「ポストマンズウォーク」や木の枝の輪切りコースターづくりにも挑戦し、森での楽しい一日となりました。

これはノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マータイさんの「もったいないキャンペーン」の一環としての活動で、当日は札幌市西区子ども会、同育成会と保護者のみなさん五十名が参加しました。

植樹ではヤチダモのポット苗木百本を植え付けました。また、隣接のトドマツ林では生長の悪い木などを抜き伐りする「除伐」作業を体験し、森づくりには継続的な手入れが必要なことも学びました。



この催しは、北海道洞爺湖サミットの開催を契機に、「木を植える↓森を育てる↓木を使う」とい

八月九・十日の二日間、北海道森林管理局は札幌市のアークセスサッポロで開催された「北の大地の森林づくり展」（北海道主催）に出展しました。

植えて 育て 使う

森林資源の循環利用を発信

北の大地の森林づくり展

（企画課）

う森林資源の循環的な利用について、広く道民のみなさんに発信することを目的に開かれたものです。

当森林管理局のブースでは、知床世界自然遺産、生物多様性の保全に向けた取り組み及び襟裳岬の緑化事業やパイロットフォレストの造成などについて、パネルで紹介するとともに、北海道国有林における代表的な取り組みを収録したDVDの配布を行いました。

当森林管理局のブースでは、知床世界自然遺産、生物多様性の保全に向けた取り組み及び襟裳岬の緑化事業やパイロットフォレストの造成などについて、パネルで紹介するとともに、北海道国有林における代表的な取り組みを収録したDVDの配布を行いました。

国有林の自然のすばらしさ、森林官とGSSの思いをミニコミに載せて
知床ウトロ&礼文島発
トレッキング情報発信中!

網走南部森林管理署 ウトロ森林事務所では、今年度から羅臼岳登山道に関する情報紙の発行を始めました。

きっかけは、登山道巡視の際に得た季節の草花や素晴らしい景色の情報をより多くの人に紹介したいという森林官・グリーンサポートスタッフ(以下GSS)の願いと、知床で活動する他の機関から「観光客から羅臼岳情報を尋ねられるので、情報が欲しい」という声があったからです。

タイトルはGSSの頭文字と掛けて“The Great Scene of Shiretoko”とし、羅臼岳(岩尾別ルート)の登山行程をイメージしやすいようにイラストで示し、各地点の季節の花や動物などの写真を掲載しています。また、携帯トイレの持参などの登山ルールやヒグマ対策などの注意情報も載せています。

配布は観光客のみなさんに手に取ってもらえるよう羅臼岳登山口及び知床ボランティア活動施設などで行っていますが、今後も反応を見ながら、配布場所を増やしていきたいと考えています。

創刊したばかりのヨチヨチ歩きの情報紙ですが、観光客の方が思わず手に取るような、発行を楽しみにしてくださる地元の愛読者がいるようなものを目指して続けていきたいと思っています。
 (越前 ウトロ森林官)



ウトロからの情報発信に張り切る
ウトロ森林官(右)とGSS



↑鹿の食害から樹木を守るシカネットを張るGSS

←The Great Scene of Shiretoko

→礼文島からの情報発信に張り切っている礼文森林官(左)とGSS



宗谷森林管理署 礼文森林事務所では、礼文島の自然の中で日々仕事をしている私たち森林官・GSSが出会った新鮮な自然情報、これはぜひ皆さんに紹介したいというGSSの思いをカラフルなイラストにまとめた情報紙「トレッキング情報」を隔週で発行しています。

紙面にはトレッキングに際しての注意事項なども掲載し、フェリーターミナルや自然交流施設「ネイチャー礼文」で配布している他、キャンプ場などでも掲示し、花の浮島礼文を楽しむアイテムの1つとして沢山のみなさんに手に取って活用いただき、大変好評です

今後も、GSS 2人の選りすぐり情報を楽しくお伝えする「トレッキング情報」、併せて平成11年から続く森林官が作る礼文国有林の月刊ミニコミ紙「礼文の森から」の発行を通じて礼文ファンを増やしていきたいと思っています。

(田島 礼文森林官)

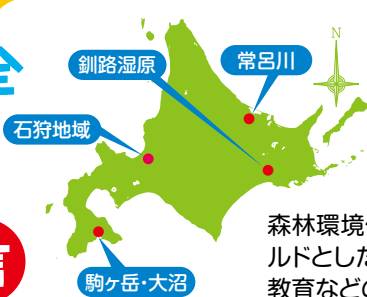


↑月刊「礼文の森から」は、間もなく通算70号に。

←隔週発行 礼文「トレッキング情報」

森林環境保全 ふれあい センター

通 信



森林環境保全ふれあいセンターは、国有林をフィールドとした自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育などの活動を支援しています。

駒ヶ岳・大沼森林環境保全 ふれあいセンター



国際ワークキャンプは、世界の若者が一緒に暮らし、地域住民と一緒に環境・文化保護、福祉などに

取り組み「国際ボランティアプロジェクト」で、七飯町大沼では七月二十日～十月十一日までの三カ月間わたって行っています。

国際ワークキャンプ

世界の仲間と大沼で森林づくり

今年韓国の青年達が集まり、森林整備、大沼の水質保全、清掃作業などを通して地元の方々と交流しながら、各種のボランティア作業を実施しています。

当センターでは、

国際色豊かな参加者が同じ価値観を共有できるようにサポートしながら、若者たちと一緒に汗を流して、作業を進めています。

(梅田 自然再生指導官)

釧路湿原森林環境保全 ふれあいセンター



杉にも及ぶ森林造成の歴史や経験を学んだ後、高さ二十四メートル望楼から造成五十年後の広大なカラマツ林を展望し、造成当時の苦勞を感じ取っていただけたいと思います。

雷別自然再生事業地では、トドマツ壮齡林の立枯れ跡地を郷土樹種であるミズナラやハルニレ、ヤチダモなどの広葉樹主体の森林へと再生していく手法を、PFの造成と比較しながら学びました。

関西地方とは少し異なる自然環境での森林再生を知る良い機会になったと思います。

(國井 自然再生指導官)

広大なパイロットフォレストに感嘆

京大のみなさんが新旧の森林再生を学ぶ

八月五日、京都大学食料・環境経済学科二年生八名が、標茶町と厚岸町にまたがるパイロットフォレスト(以下PF)の森林造成と標茶町の雷別自然再生事業地の森林再生を見学に訪れました。

PFでは、造成当時に使われた大型造林機械や三十年前の記録映像から、一万

石狩地域森林環境保全 ふれあいセンター



子どもたちと一緒に森林再生状況の調査をする
「樹木コンサルタント」のみなさん



外来種除去のため伐倒したニセアカシアで
看板を作った「野幌森クラブ」のみなさん

アクティブな活動を展開中

野幌の森林再生プロジェクト

今月は野幌森林公園の台風被害跡地で進めている「森林再生プロジェクト」で活動している方々の中で特にユニークな二団体を紹介します。

・樹木コンサルタント

(南幌町)

この団体は地域の子どもたちを森林づくり活動に取

り込み、植樹だけでなく調査活動なども通じ、五感で感じる体験活動を進めています。

・野幌森クラブ(札幌市)

野幌で採種した種から育てた苗木にこだわり、自前のミニ苗畑も作っていました。

この夏、ミニ苗畑には、

(山本 自然再生指導官)

当センターが春に伐倒したニセアカシアを材料として、会員の創意工夫で看板を製作し設置しました。野幌での団体型森林づくりでは、各団体がいずれ劣らぬ個性的な活動を展開しています。

団体の方々とは、森づくりの方向や管理のあり方などについて意見を交わすことも多く、真に開かれた国有林へ向けて、私たち職員にとっても大きな刺激となつていきます。

常呂川森林環境保全 ふれあいセンター



館等の連携により、児童生徒の科学技術などへの興味・関心などを育成することを目的)の支援で実施されたものです。当日は実生の苗を掘り取り、慣れない鎌と鍬の作業に苦勞しながら地拵えを行

七月十五日(火)、北海道北見北斗高等学校一・二年の希望者二十五名の皆さんと、北見市のオホーツクの森で、「体験型森林環境教育」のサポートを行いました。

これは、(独)科学技術振興機構の「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」(学校と大学・科学

生徒たちは活発に質問をしながらメモを取り、今回の体験活動から多くのことを学んだようでした。
(国沢 自然再生指導官)

理系への興味育む サイエンス・パートナーシップで森林へ

北見北斗高校のみなさん

治山最前線 有珠山の国有林治山事業

噴火・崩壊から緑が蘇った有珠山



山地の保全・災害復旧などの治山事業を現地で担う
各地の治山事業所からのレポートを紹介します



治山工事で緑が蘇った有珠山小有珠川地区



後志森林管理署
室蘭治山事業所

下流域の安全を図り、緑化を進める有珠山大平地区の低ダム群工法

今月の治山最前線は室蘭治山事業所からお届けします。

後志森林管理署室蘭治山事業所では、主に有珠山地区・登別温泉地区での治山事業を行っています。

有珠山といえば今年の七月七日から九日にかけて、洞爺湖町で開催された北海道洞爺湖サミットでは、環境問題がクローズアップされましたが、有珠山においても噴火により荒廃した山地を回復させるべく様々な事業に取り組んでいます。

治山工事は大別すると溪間工と山腹工の二つに分けることが出来ます。

溪間工はいわゆるコンクリートダムなどであり、ダムを配置することで溪床勾配を緩和し、土石流の勢いを緩め、下流の安全を確保します。また、浸食を防止することで溪床の安定を図り、植生侵入の基盤を作ります。例として写真①が有珠山大平地区の低ダム群工法という溪間工です。

山腹工は、木柵工や土留工、緑化基礎工などを組み合わせて行っています。有珠山では度重なる噴火により厚く火山灰が降り積もり、樹木も壊滅的な被害を受けたため、降雨によって浸食されやすい状態となっていました。そこで、等高線状に木柵工や土留工を配置し、緑化基礎工を行うことで浸食を抑え、緑化を促しています。

写真②は二〇〇〇年噴火後の有珠山小有珠川地区の様子です。そこに山腹工や溪間工を行い、二〇〇七年には写真③のように緑が蘇ってきました。

このように有珠山では様々な治山工事を行っています。

今年には国際交流森林環境フォーラムや森林くらぶなどのイベントも開催され、二〇〇〇年噴火によって壊滅的な被害を受け、その後の治山事業によって回復を遂げた金比羅地区の様子を見ていただくことができます。

有珠山は活発な活火山であり災害も引き起こしますが、温泉や景観など多くの恵みを地域に与えてくれます。

今後この有珠山の安全を守り、共存できるような日々の仕事に取り組んでいきたいと思えます。

後志森林管理署 室蘭治山事業所

- 室蘭市港南町1丁目18-27
- 電話 / 0143-22-2876

主任 鈴木 嘉一





十勝ダムとその背後に広がる国有林

森林官 リレー

明るい森林事務所で
季節の移り変わりを感じながら
森林づくり

美しく雄々しい東大雪
の山々と日高山脈に
抱かれた新得町にある屈足

森林事務所に今春赴任し、
早五か月が過ぎました。

現場勤務は実に十五年ぶ
りで、すべてが新しいこと
ばかりで、新任の森林官の
頃のように日々勉強の毎日
です。

屈足森林事務所の管轄
面積は約六、二〇〇^{ヘクタール}

で人造湖「十勝ダム」の背
景林として人工林と天然林
を自然景観の維持のために
整備しています。

森林づくりの現場では、
春から季節の移り変

わりを感じながら造林など
の森林整備事業の監督や検
査、間伐予定地の調査、地



造林地の中を悠々と歩くキタキツネ

況・林況調査などを基幹作
業職員と協力しながら進め
ています。

前任地である釧路湿原
森林環境保全ふれあ

いセンターで実施してい
た子どもたちとの「出前森林
教室」をこの地域でも行う
ことができると考え、地

元の小学校に出向きPRを
行ってきました。

身近にある森林・国有林
での体験を通じて、次の世
代を担う子どもたちに森林
の大切さを伝えて行けるよ
うな取り組みを森林事務所
として進めていくことがで
きればと考えています。

最後に、私事ですが今
回初めての単身赴任

と、一時間の通勤を体験し
ていることから、これまで
以上に健康管理に気をつけ
ながら、屈足森林事務所を
今まで以上に明るい森林事
務所にしていきたいと思っ
ています。



十勝西部森林管理署
東大雪支署

屈足森林事務所

首席森林官

齋藤 克則



屈足森林事務所のメンバー（本人中央）

屈足森林事務所

- 上川郡新得町屈足柏町5
- 電話0156-65-2849

→美しい神仙沼の自然にみんな感動しました！



↓森の中に「カモフラージュ」して隠したものをみんなで見つけてみよう！



↑あの大きな木の高さを測ってみよう！



↑アルミ缶炊飯。お〜い、美味しいご飯が炊けたぞ！！〜

夏休みスペシャルイベント

森林へ行って遊ぼう！！

空知森林管理署



↑葉っぱじゃんけん「はっぱっぱ！」僕が見つけた葉っぱの方がスゴいぞ〜！

↓森林官の道具「輪尺」で木の太さを測定中。



↑みんなで作った竹串にグサッとお肉にタマネギいろいろ刺して、ダイナミックなBBQ！



↑いろんな形の木の種があるんだよ〜

子どもたちのビッグイベント「夏休み」。

空知森林管理署では今年も夏の森林で過ごす特別企画を三本行い、元気がいっぱいの子どもたちと楽しい思い出を作りました。

パート1 木の身体測定

七月三十日（水）、岩見沢郷土科学館友の会と連携し、「木の身体測定」を利根別自然休養林で行い十名が参加しました。

まずは、木の材積を予想してから、その木を測高器や輪尺で実際に「身体測定」（写真①）して材積を算出、予想との比較をしました。

また、楽しいネイチャーゲーム（写真②）も行い、参加者は夏でも涼しい森の中で楽しいひと時を過ごしました。

パート2 少年団キャンプ

八月七日〜八日には、岩見沢市等と連携し、「岩見沢花と緑の少年団夏休みキャンプ」を行い、神恵内村の神恵内青少年旅行村まで二十三名の団員と「遠征」

し、共和町の神仙沼の散策（写真③）やネイチャーゲーム（写真④）を楽しみました。子どもたちはこの野外ゲームにお腹が空いたのも忘れるほど熱中し、夕食の時間がずれ込む程でした。

パート3 森の仕事体験

八月十二日（火）は、公募で集まった岩見沢市内の小学生三十四名と「森のしごと（フォレスト）体験講座」を利根別自然休養林で行いました。

笹でマイ箸を作り、アルミ缶での炊飯体験や笹の串に食材を刺してのバーベキューのほか、笹茶を飲むなど、自然の中での食事（写真④・⑥）を楽しみました。

食後の運動には、「木の身体測定」（写真⑦）とネイチャーゲーム（写真⑧）で森の中を楽しく走り回りました。

元気な小学生のみなさん、次は冬休みのイベントで会いましょう！（金澤 流域管理調整官）



↑山に森林の有無で雨水の流れはどうか模型で実験です。
 じょうろで雨を降らすと一目瞭然。
 森林のある山からは、きれいな水が湧き出しました。

【石狩署】七月三十日（水）、石狩川開発建設部漁川ダム管理所が主催する「漁川ダム見学会」において、同ダム上流の

ふれあいさわやか 森と湖

森と湖に親しむ旬間

国土交通省及び林野庁は、毎年7月21日から31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定め、国民のみなさんに森林や湖に親しむことにより、心と体をリフレッシュしながら、森林やダム等の重要性について理解していただくことを目的とした様々なPR活動を行っています。

とに、参加者のみなさんは驚くと共に森林の果たす役割とその大切さを改めて実感していました。
 （藤本 業務第一課長）

「三段の滝」での自然学習会を担当しました。
 当日は恵庭市内の小学生ら九十名の参加があり、山に森林があることにより雨がどのよう流れていくのかを模型を使って実験したり、木の種の模型を全員で作って飛ばし、その飛散のしかたを体感するなどしました。

特に雨水の実験では、土だけの箱からはすぐに泥水が流れ出てきましたが、木の植えられた箱からはゆっくりときれいな水が浸み出てきました。



【上川南部署】七月二十七日〜二十八日の二日間、南富良野町のかなやま湖において、第三十七回かなやま湖・湖水祭りが好天の下、盛大に開催され、一万五千人の観光客が訪れました。
 当森林管理署では、会場に国有林のコーナーを設け、空中写真を立体鏡で覗いて、かなやま湖周辺を鳥になった気分で見てもらったり、二十三種類の樹木標本、高山植物や動物の写真

パネルの展示を行いました。
 また、会場で一般参加者を募った「水源地ツアー」では、森林・林業についての解説やアカエゾマツの植樹体験などを行いました。
 参加者のみなさんからは「思ってもいなかった植樹体験ができてうれしかった」との声が聞かれ、国有林を守り育てている私たちの仕事にも理解を深めてもらうことができました。

↑水源地ツアーでは、アカエゾマツの植樹体験も好評でした。

→立体空中写真とパネルで森林・林業をPR



（佐藤 流域管理調整官）



GISを活用し森林データをパソコン処理

業務については、IT化による効率的な支援を図るためにこのシステムを導入し、日々の森林づくりに役立てています。

檜山森林管理署では八月二十五・二十六の両日、林野庁森林技術総合研修所(八王子市)で森林GISシステム研修を修了した北海道森林管理局函館事務所の

職員を講師に、このシステムと携帯型GPS装置の実践的な活用方法について職員講習会を行いました。

当日は仮想の林道予定線を設定し、森林GISへ予定線の位置情報を入力、その位置情報データを携帯GPSに取り込み、更に現地において携帯GPSの表示や指示に従いながらルート踏査という一連の作業を実施し、その機能を確認しました。

今後は、森林づくりの現場での様々なシーンでの活用を図っていきたくと考えています。

(押野 流域管理調整官)

【檜山署】森林GIS (Geographic Information System) 地理情報システム



ム)とは、デジタル化した森林の地図をベースに属地的データ(森林資源の情報や森林づくり作業の予定・実行結果など)を関連づけて、一元的かつ継続的に管理することにより、森林の管理経営の効率化や企画立案の支援に資するコンピュータシステムです。

国有林では地球温暖化ガスの森林吸収量の報告・検証体制の強化、森林地図や森林調査簿などを使用する



現場でGISのデータをGPSで検証



自然再生の状況をプロット調査

調査・研究のテーマは、「風倒跡地における風倒木残置が植生回復に与える効果」で、自然のプロセスによる森林再生と従来の施業方法による森林再生を比較検討するものです。

現地は、風倒被害直後から調査・研究の場として設定し、風倒木を意識的に残置していた個所で、五月下旬に協定地内に調査プロットが設定され、土壌水分、土壌硬度、地表被覆物の種類と割合、光環境、風散布種子量、プロット内の植生調査などが計画的に進められています。

風倒木残置が植生回復に与える調査・研究は国内においてはデータも少ないと聞いており、調査がスムーズに実施されるよう協力するとともに、逐次情報交換をしていく考えです。

(杉村 流域管理調整官)

千歳国有林 風倒被害地の自然再生を追跡調査

北大森林科学科

【石狩署】北海道大学農学部森林科学科と当署が今年二月に締結した「千歳国有林森林再生等の調査研究に関する協定」に基づき、同大による調査活動が千歳国有林風倒被害地で始まりました。

調査・研究のテーマは、「風倒跡地における風倒木残置が植生回復に与える効果」で、自然のプロセスによる森林再生と従来の施業方法による森林再生を比較検討するものです。

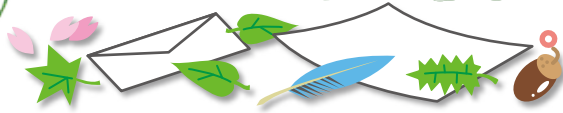
現地は、風倒被害直後から調査・研究の場として設定し、風倒木を意識的に残置していた個所で、五月下旬に協定地内に調査プロットが設定され、土壌水分、土壌硬度、地表被覆物の種類と割合、光環境、風散布種子量、プロット内の植生調査などが計画的に進められています。

風倒木残置が植生回復に与える調査・研究は国内においてはデータも少ないと聞いており、調査がスムーズに実施されるよう協力するとともに、逐次情報交換をしていく考えです。

(杉村 流域管理調整官)



各地からの便り



調印後に握手を交わす松井積丹町長（右）と
瀬戸口石狩森林管理長

積丹町と石狩森林管理署は、8月28日（木）、
国有防風保安林管理協定を締結しました。

本協定は、町営牧野及び町有林等に隣接する当
署管轄の国有防風保安林について、ゴミの不法投
棄等の問題が考えられることから、連携・協働し
て情報交換やパトロール等の維持管理を実施して
いくというものです。

これは、流域管理アクションプログラム実施メ
ニューの一環として、管内に所在する約1,500㍏
の防風保安林について、所在地域からの多種多様
な要望に対して、自治体や地域の皆様のご協力を
得ながら応えると共に維持管理を行っていくこと
を目指したものです。

同町とは引き続き、路網を中心として国有林と
民有林が連携した共同施業団地化の森林整備協定
や、漁協等との連携なども視野に入れ、さらなる
連携の強化を図っていきたく考えています。

今後も当署では地域の皆様のご理解、ご協力を
得ながら防風保安林の維持管理を進めてまいりま
す。
(杉村 流域管理調整官)

地域と共に保安林を守ります

積丹町と国有防風保安林管理協定

石狩森林管理署

8月4日（月）、網走中部森林管理署では、N
P O法人 自然体験村「虫夢ところ昆虫の家」に
よる自然体験活動「いきいき2008オホーツク自
然体験村」のプログラムで、北見市常呂町吉野の
国有林をフィールドとする森林散策で講師を務め
ました。

これは、同会が全国から応募のあった小中学生
を対象に、自然の大切さ、自然の本来の姿、自然
環境の大切さ等について様々な体験活動を通して
学んでもらうもので、毎年実施されています。

9回目となる今年は、7月30日から8月12日
までの13泊14日にわたって行われました。

当署では、このプログラムの1つである森林散
策を担当し、小中学生26名と一緒に林道等を16
kmにわたって散策しながら木の種の模型を作った
り、沢の水量測定などを行いました。

当日は30℃を越す暑さでしたが、リタイアす
ることなく全員が歩き抜きました。

森林の中での様々な発見・体験を通じて子ども
たちはたくさんのことを学んだようでした。

(佐藤 流域管理調整官)



沢の流量調査をする子どもたち

オホーツクの自然の中で

たくさん発見したよ

いきいき2008オホーツク自然体験村

網走中部森林管理署



森林管理署のおじさんたちと
トンカチでいろんな物作ったよ
芦別産業フェスティバル
空知森林管理署

空知森林管理署では、8月30日～31日の2日間にわたって盛大に開催された芦別市の「芦別産業フェスティバル」に「トンカチ広場」で出店して祭りを盛り上げました。

この催しは例年、農業まつりと併せて芦別市北大通りで行われてきましたが、今年は芦別駅前の活性化を図るべく会場を駅前通に移して行われました。

当署のトンカチ広場は、トドマツ君、カラマツ君と銘打った木製キットを組み立てる、子どもたちの笑顔と歓声あふれる大人気のコーナーです。

子どもたちは森林管理署のおじさんたちに手伝ってもらいながら、トンカチを「トントン!」「カンカン!」と打ち、時にはクギが曲がってしまったりと、いろいろな苦労と紆余曲折?があったようですが、最後には、「できた!」と大きな声で喜び、1時間もかけて作った力作を達成感とともに大事に抱えて帰って行きました。

(杉尾 森林ふれあい係長)

●●●健康増進●●●
快適な職場づくりにむけて
国有林野事業労働衛生週間

平成20年度全国労働衛生週間は厚生労働省及び中央労働災害防止協会の主唱により、9月1日～30日を準備期間、10月1日～7日を本週間として全国一斉に行われます。

国有林野事業においては、職員の健康の保持増進と快適な職場環境づくりに取り組むことを趣旨に、「「どうしたの?」見逃さないで 悩みのサイン 話せる雰囲気 私の職場」をスローガンとして衛生管理のより一層の推進を図ることとしています。

この週を契機に、皆さんの職場・家庭などでも健康管理の保持増進や心の健康づくりの積極的な取り組みを進めていきましょう。
(職員厚生課)



広報「北の森林 国有林」9月号 No.100
 発行 北海道森林管理局
 編集 保全調整課
 〒064-8537 札幌市中央区宮の森 3条7丁目70
 I P 電話 050-3160-6274
 電 話 011-622-5231
 F A X 011-622-5235

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

国産材使用して減らすCO₂
 十月は、「木づかい推進月間」
 国産材を使いましょう
3.9

局 大会議室
 十月十七日(金)
 第七回生物多様性検討委員会
 十月二～三日(木～金)
 国有林モニタリング現地検討会・会議
 札幌市定山溪国有林 外
 九月二十七日(土)
 森林のつどい2008
 「育樹祭」
 知床・斜里町

EVENT INFORMATION
行事・イベント情報